

学校教育目標	かしこく やさしく たくましく
目指す学校像	○笑顔と希望のあふれる学校 (自他を尊重し、一人ひとりが自己肯定感を高め、意欲的に生活できる学校) ○安心・安全な学校 (一人ひとりにとって安心・安全な居心地の良い学校)
重点目標	1 ICTを活用した、主体的に学び合う児童を育成する授業の実現 2 安心・安全な学校に向けた、子どもに寄り添う生徒指導・教育相談の充実 3 地域の一員として自分にできることを考え、行動できる児童の育成 4 安全・安心な学校の施設・設備を確保するための管理及び適切な予算執行 5 教職員が協働して互いに高め合える、健康で明るい雰囲気職場づくり

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	(8割以上)
成	B	概ね達成	(6割以上)
度	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心のサポートに関する取組

地域とともに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学 校 自 己 評 価		年 度 目 標		年 度 評 価		学校運営協議会による評価		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的・基本的な学力は概ね定着しており、さいたま市学習状況調査では、市の平均正答率を上回っている。</li> <li>○どの学級も落ち着いた雰囲気の中で授業に取り組むことができている。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習状況調査において無回答率が高く、粘り強く解決に向けて取り組むことができない児童が多い。</li> <li>○「タブレットの効果的な活用」について、教職員で共通理解を図る必要がある。</li> </ul>	<p>基礎学力の定着に向けた授業改善</p>	<p>1 主体的に対話的で深い学びにつながる授業実践について、学校研修において組織的に行う。</p> <p>2 学校と家庭が連携した基礎学力の定着に繋がる環境整備を行う。</p>	<p>1 学校評価「授業が分かる」児童A評価が70%以上となったか。(昨年度62%)</p> <p>2 タブレットを活用した家庭学習を習慣化することができたか。</p>	<p>1 学校評価「授業が分かる」児童A評価は63%であり、昨年度と同水準であった。</p> <p>2 家庭学習での活用については、学年の実態や発達段階に応じて進めている。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員がさらに主体的に研修に取り組める体制を構築する。</li> <li>・発達段階に合わせた家庭学習での利用方法の研究を進め、効果的な活用方法を検証する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「やっていいこと・悪いこと」が判断できる情報モラル指導が必要。</li> <li>・「生成AI」は場面を考慮して使わせる必要がある。</li> <li>・長時間使用を制限するための策があるとよい。</li> <li>・「書くこと」を大切にしてほしい。</li> </ul>
2	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校評価「学校は楽しい」の質問に肯定的な回答をした児童は89%であり、前年度より5%減少している。</li> <li>○学校が安心・安全で居心地のよい場になるよう、児童一人ひとりに寄り添った生徒指導・教育相談体制に向けて取り組んでいる。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○不登校傾向や特別な配慮が必要な児童に対する個に応じた指導・支援について、組織的に対応できる仕組みを再整備し、「誰一人取り残さない教育」を実現するための手立てを構築する。</li> </ul>	<p>児童一人ひとりを大切にしたい指導体制の構築</p>	<p>1 児童一人ひとりに寄り添った、組織的な生徒指導・教育相談体制を構築する。</p> <p>2 校長講話や学校だよりで、「笑顔であいさつ」「言葉」の大切さについて取り上げる。</p> <p>3 「善悪の判断を正しく行う」「いじめをしない、許さない」児童の育成のため、発達支持的生徒指導を校内指導体制の核とする。</p>	<p>1 学校評価「学校は楽しい」児童の肯定的な回答が95%以上となったか。(昨年度89%)</p> <p>2 校長講話や学校だよりで、「笑顔であいさつ」「言葉」の大切さについて取り上げる。</p> <p>3 学校評価「友達となかよく」教職員・保護者・児童のA評価を昨年比各5%上げる。(昨年度48%・44%・72%)</p>	<p>1 学校評価「学校は楽しい」の肯定的な回答は90%であり、昨年度と同水準だった。</p> <p>2 あいさつや前向きな声掛けなどの話題を学校だよりや講話で取り上げ、毎日「笑顔であいさつ」を全職員で共通理解・共通行動を行った。</p> <p>3 学校評価の結果は昨年度と同水準だった(教49% 児47% 保67%)。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・否定的な回答をしている児童への対応について、自己肯定感を高められる対応を組織的に行う。</li> <li>・「おはようメーター」を効果的に活用する体制を構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝のあいさつがよくなった。大人が手本を示すことが大事。</li> <li>・100%を目指すのではなく、ゆとりを持たせた計画や策を検討してよいのではないかな。</li> </ul>
3	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校運営協議会での熟議を踏まえた学校運営ができてきている。</li> <li>○学校Webページ、学校安心メール等で、定期的に保護者や地域に情報提供できている。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○あいさつの習慣が定着している児童が限定されており、全児童に「笑顔であいさつ」を定着させる取組の工夫が必要である。</li> <li>○PTAや地域の方々と協議し、児童が保護者や地域の方々と多世代交流をし、地域形成の一員として活躍できるようにする。</li> </ul>	<p>「笑顔であいさつ」を児童自らが行える明るい学校づくり</p> <p>地域に根差した教育活動による児童の地域意識の向上</p>	<p>1 児童・教員・家庭・地域が協働したあいさつ運動を実施する。</p> <p>2 全教職員による「笑顔であいさつ」とすべての児童への前向きな声掛け。</p>	<p>1 学校評価「あいさつ」において、児童、保護者、教職員の肯定的回答が前年度超となったか。</p> <p>2 全職員が笑顔で児童と接しているか。</p>	<p>1 学校評価の肯定的回答は昨年度並みであった(児90→87% 保93→94% 教92→94%)</p> <p>2 教職員から進んで「笑顔であいさつ」を実践している。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「笑顔であいさつ」をキャッチコピーとして、学校と家庭・地域が連携した取組を計画・実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の防災訓練にチャレンジスクールが参加したことで、子どもの地域と触れ合えた。次年度も参加してほしい。</li> <li>・地域と学校、PTAと連携する方法について検討が必要。</li> <li>・文蔵小まつりの実施方法については、検討する必要がある。学校主体での実施は学習指導要領にないため困難。</li> <li>・地域の団体の活用もある。</li> </ul>
4	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○安全点検が適切に行われており、危険箇所の早期発見・早期対応が実施できている。</li> <li>○昨年度は、大きな事故等は起きていないが、危険な事案は報告されている。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各学習室を活用するための手立てが必要である。</li> <li>○安全指導については、家庭や地域の協力のもと、年間を通して組織的に継続的な指導の必要性がある。</li> </ul>	<p>安全・安心な教育環境の整備</p>	<p>1 危機管理対応マニュアルをもとに、実践的な訓練や研修を重ね、危機管理意識を高めるとともに危機対応能力を向上させる。</p> <p>2 毎日の校舎、校庭、学校周囲の巡視・点検(月1回の安全点検を含む)により、安全・安心な環境をつくる</p> <p>3 備品等の購入については予算会議を実施し、優先順位を明らかにして計画的に予算を執行する。</p>	<p>1 組織的に円滑かつ確実に対応するための、各種マニュアルの修正及び補足資料を作成し、全職員で共通行動を共有することができたか。</p> <p>2 修繕箇所の発見から対策までを3日以内に実施し、常に施設・設備が安全な状態が保たれているか。</p> <p>3 学校配当予算の該当項目の執行率が99%以上となったか。(R6は99%)</p>	<p>1 各種マニュアルを年度当初に修正し、各自が手元において、いつでも確認できる環境を整えた。</p> <p>2 安全点検の集約方法を改善し、組織的に修繕箇所の覚知から対応までの流れを円滑に行った。軽微な修繕は即日対応した。</p> <p>3 執行率は99%となり、達成した。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初に各種マニュアルの確実な修正と内容の共有を全職員で行う。</li> <li>・各種防犯・防災訓練を長期的な展望に立って確実な実施と改善を図る。</li> <li>・改善した安全点検の組織的な取組を継続するために、引継ぎを確実に実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適正かつ効果的な予算の執行を計画的に行ってほしい。</li> <li>・校舎の老朽化を踏まえ、引き続き教育委員会と交渉していくものと本校で対応するものと分類し、計画的に進めてほしい。</li> </ul>
5	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○校内研修や学年会等を通して、情報交換や勉強会を実施する等、積極的に学ぶ姿勢がある。</li> <li>○高学年での教科担任制の実施により、担当教科について、より深く教材研究をすることができている。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教職員の指導力のさらなる向上のため、校内研修体制を組織的で系統的なものにする必要がある。</li> <li>○一人ひとりの教職員が担う業務を精選し、教材研究や主体的に学ぶ時間をいかにして確保するかが課題である。</li> </ul>	<p>教師自身の主体的に対話的で深い学びの実践</p>	<p>1 校内研修等を全教職員で学ぶ場として位置づけ、指導主事や管理職による丁寧な協議や指導をする。</p> <p>2 外部講師を招聘した研修会を年間3回実施し、校内研修を体系化する。</p> <p>3 学期1回、管理職による対話に基づく受講奨励を実施する。</p> <p>4 会議の効率的な進め方を確認し、時間内に終わらせる。</p>	<p>1 外部講師を招聘した研修会を年間3回実施したか。</p> <p>2 学期1回、管理職による対話に基づく受講奨励を実施したか。</p> <p>3 教職員意識調査「業務改善」肯定的評価を80%以上にする。(昨年度74%)</p>	<p>1 学力向上及びICT活用による指導力向上のための研修会を4回実施した。</p> <p>2 面談時(1、3学期)には全員に実施した。適時実施できたことがあった。</p> <p>3 肯定的評価は61%となり、昨年度よりも低い値となった。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の配置が滞り、増加した業務の割振りを平準化することが困難であった。</li> <li>・教員各々が自身の業務遂行を計画的に行えるように、会議の設定日の変更や教育課程の見直しを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務改善について、校務分掌の再編成などできることを着実に取り組むとよい。</li> <li>・教職員が意識を共有したり共感したりできる雰囲気を醸成したい。</li> </ul>

学校運営協議会による評価  
実施日令和8年3月5日